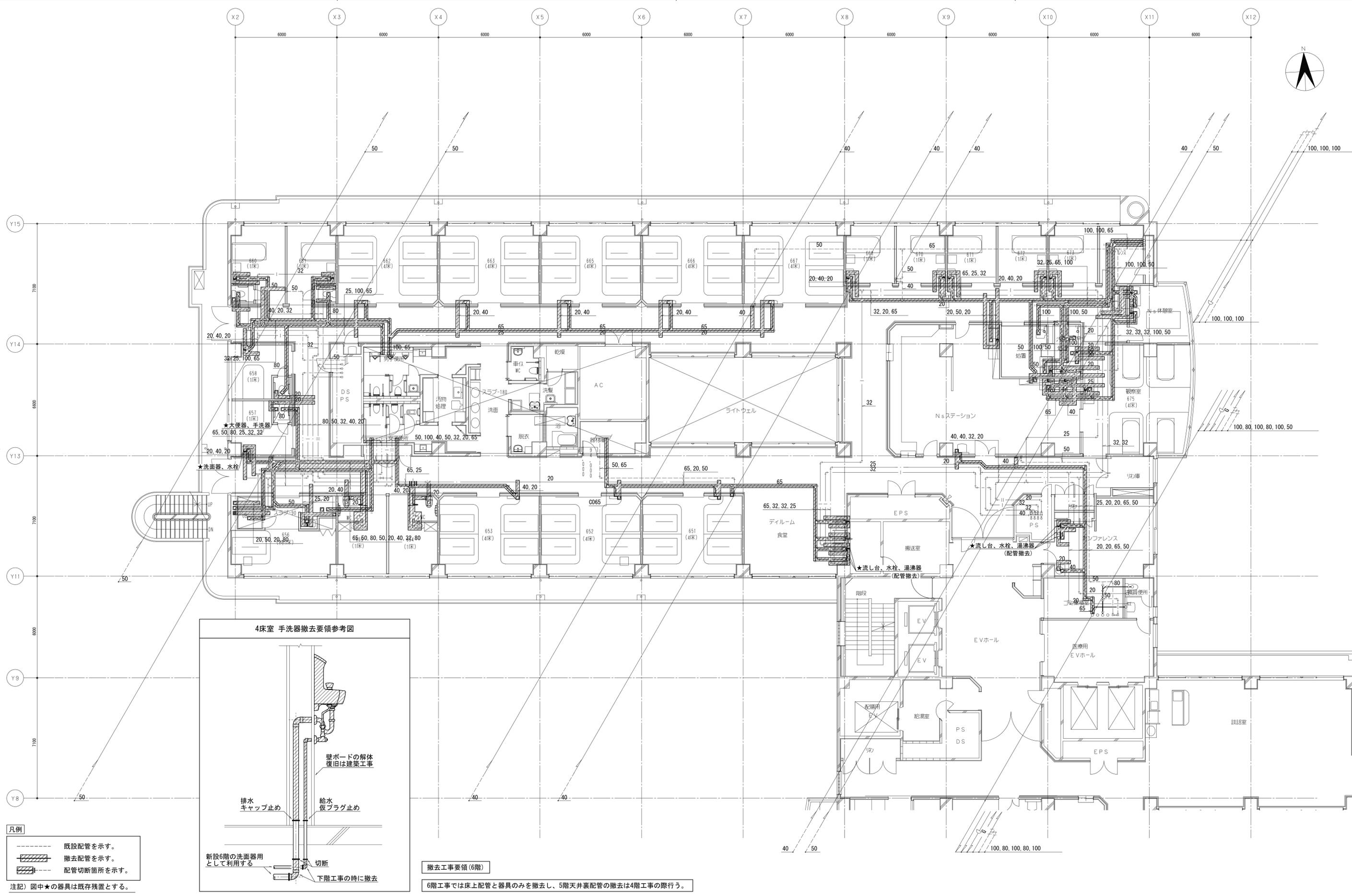


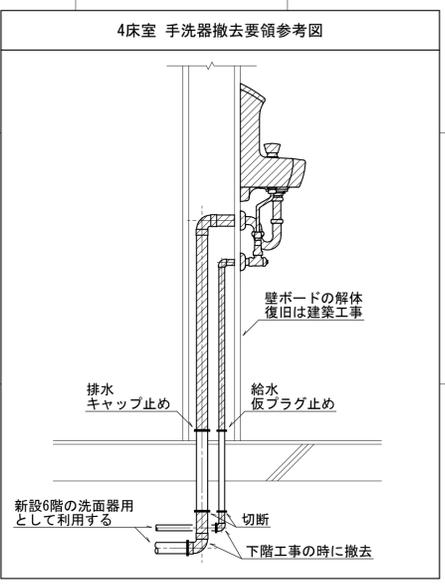
- 凡例
- 既設配管を示す。
 - 新設配管を示す。
 - |— 配管切断箇所を示す。



凡例

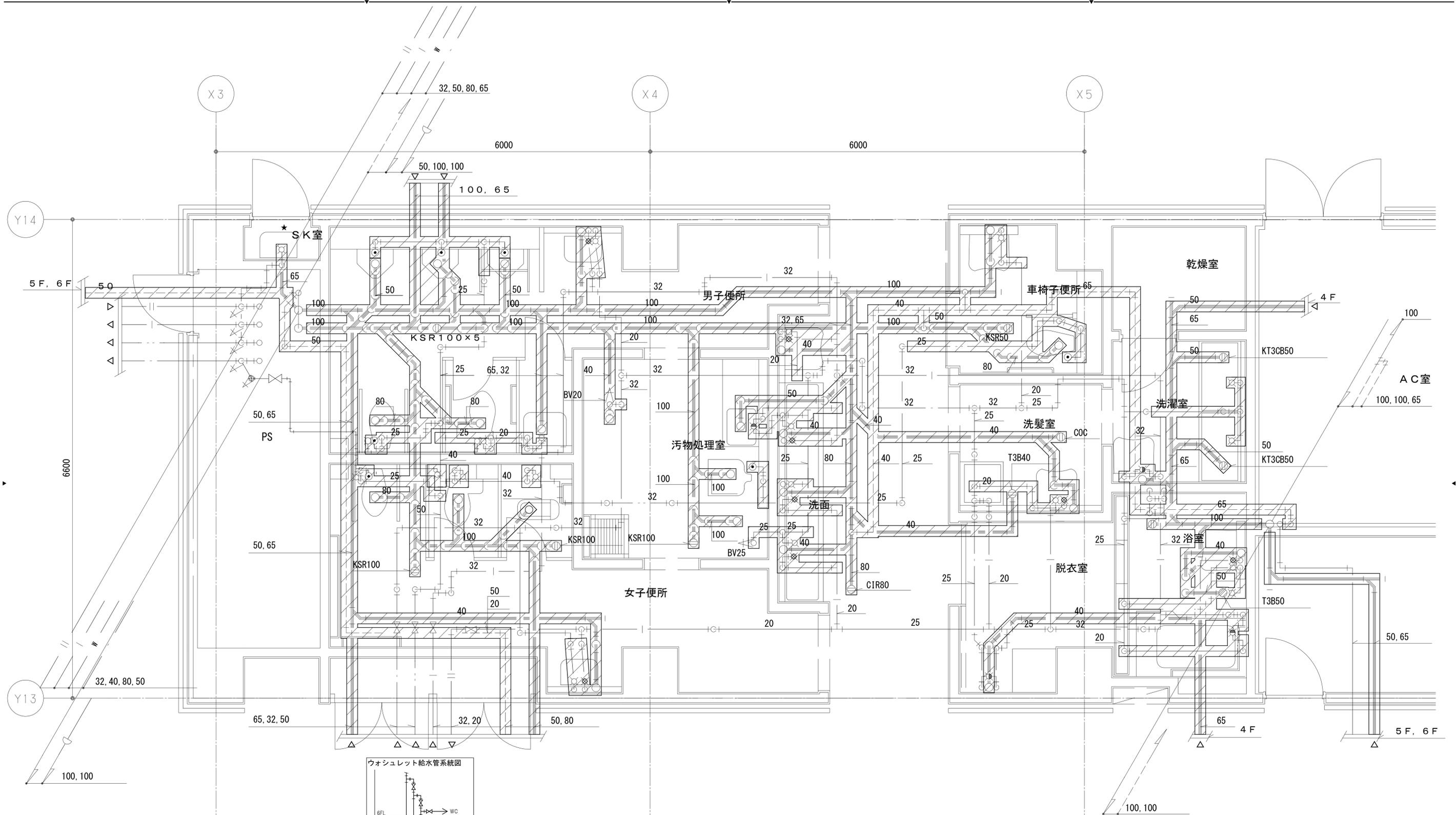
- 既設配管を示す。
- 撤去配管を示す。
- 配管切断箇所を示す。

注記) 図中★の器具は既存残置とする。



撤去工事要領 (6階)

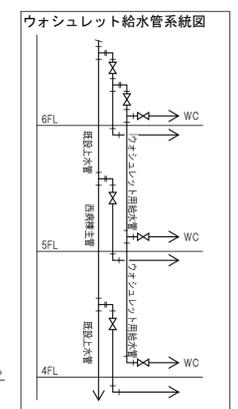
6階工事では床上配管と器具のみを撤去し、5階天井裏配管の撤去は4階工事の際行う。

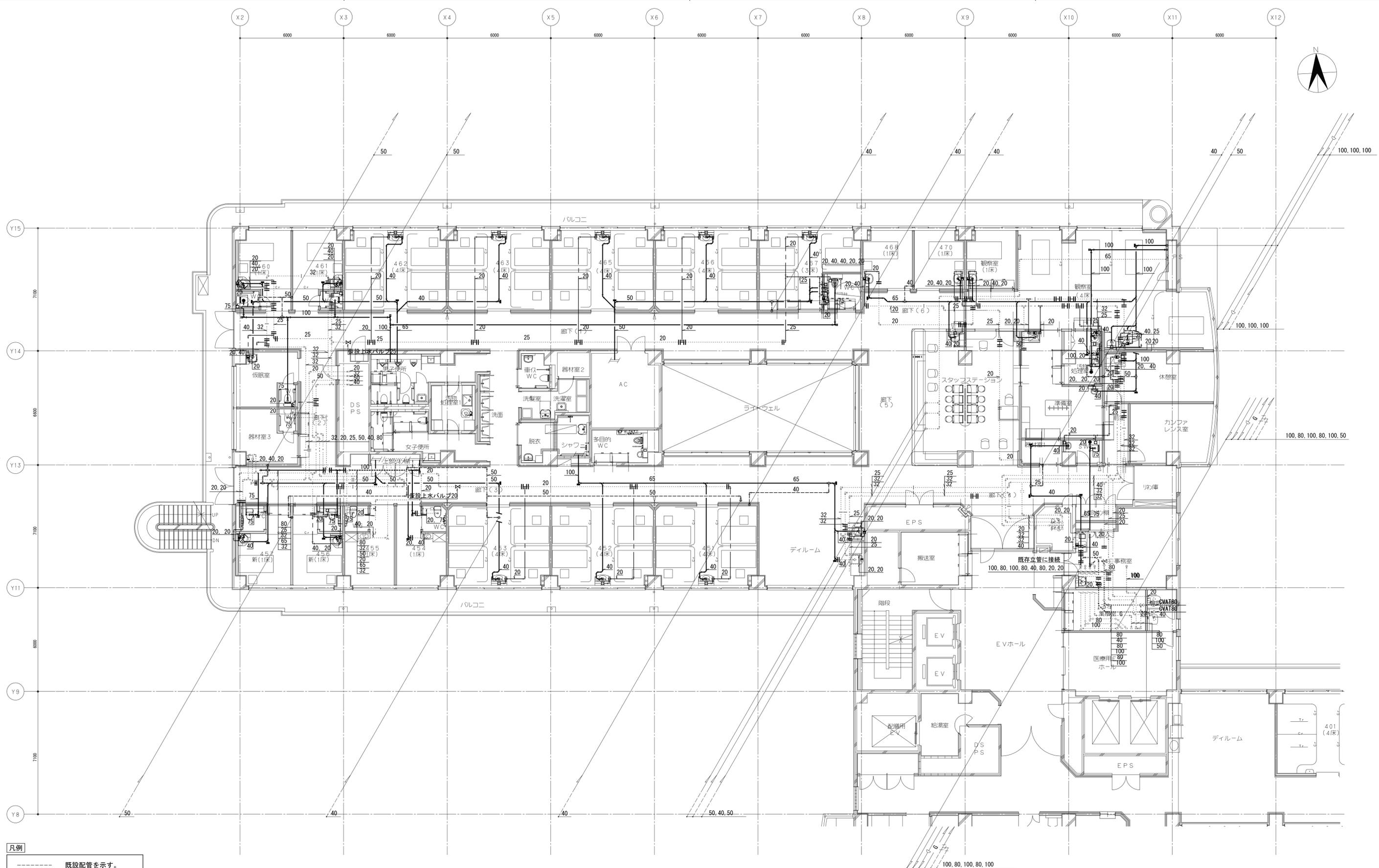


4～6階西棟便所平面詳細図 S : 1 / 25

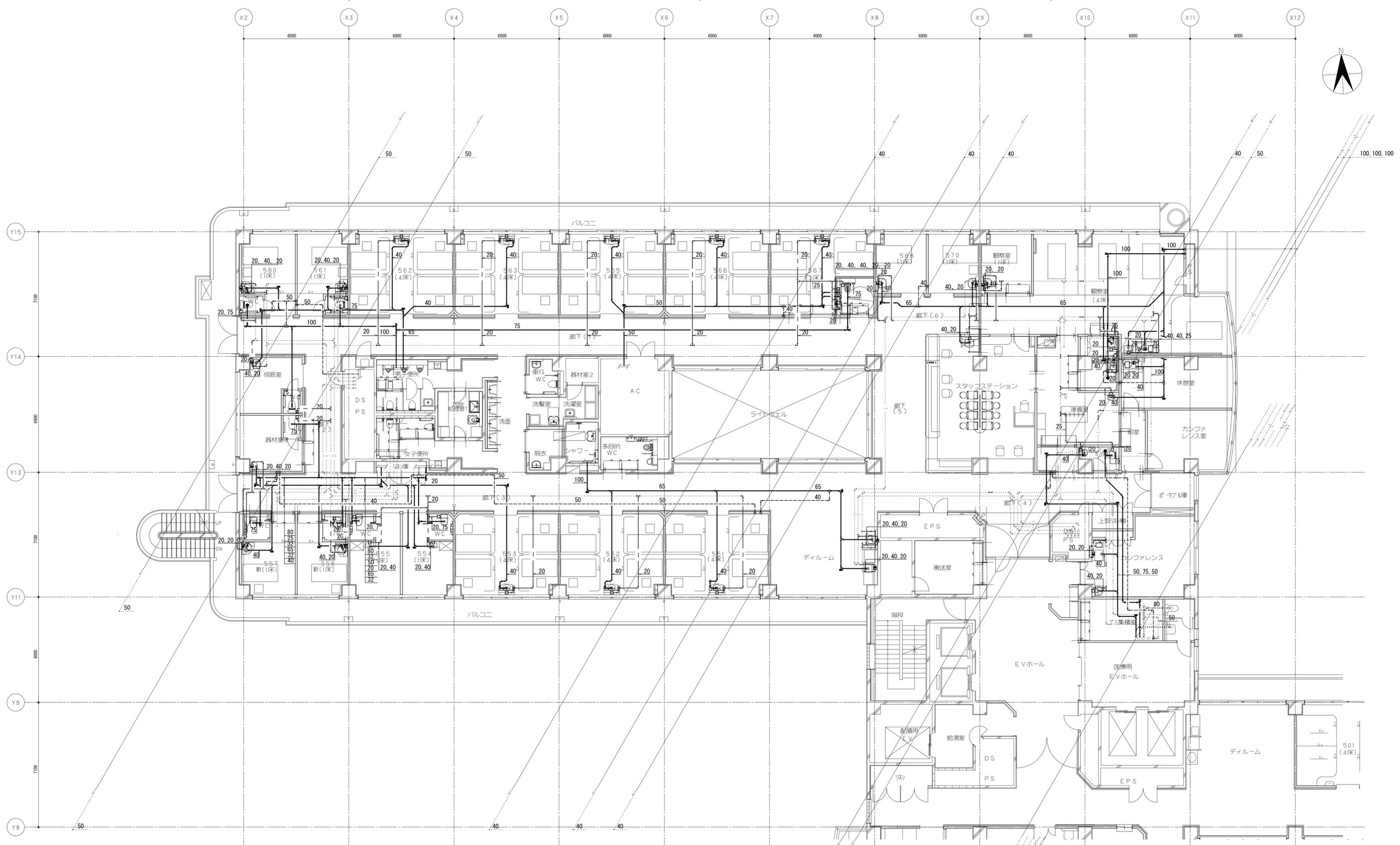
凡例
 - - - 既設配管を示す。
 [Hatched] 撤去配管を示す。
 - · - 配管切断箇所を示す。

注記) 図中★の器具は既存残置とする。
 ・ウォシュレット用上下水配管はステンレス露出裸配管。





- 凡例
- 既設配管を示す。
 - 新設配管を示す。
 - |— 配管接続箇所を示す。

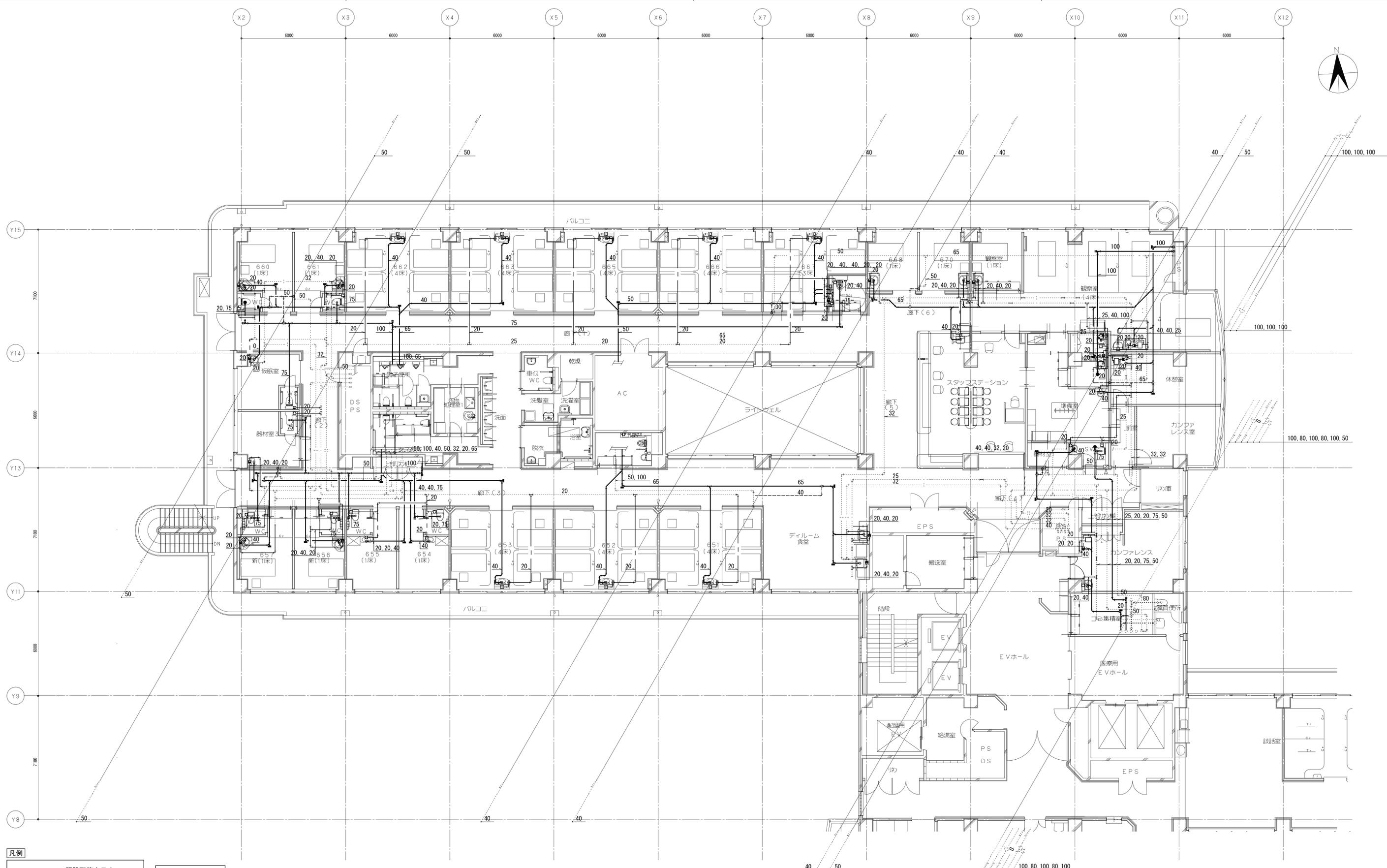


凡例

----- 既設配管を示す。
 ———— 新設配管を示す。
 —+— 配管接続箇所を示す。

改修工事要領 (5階)

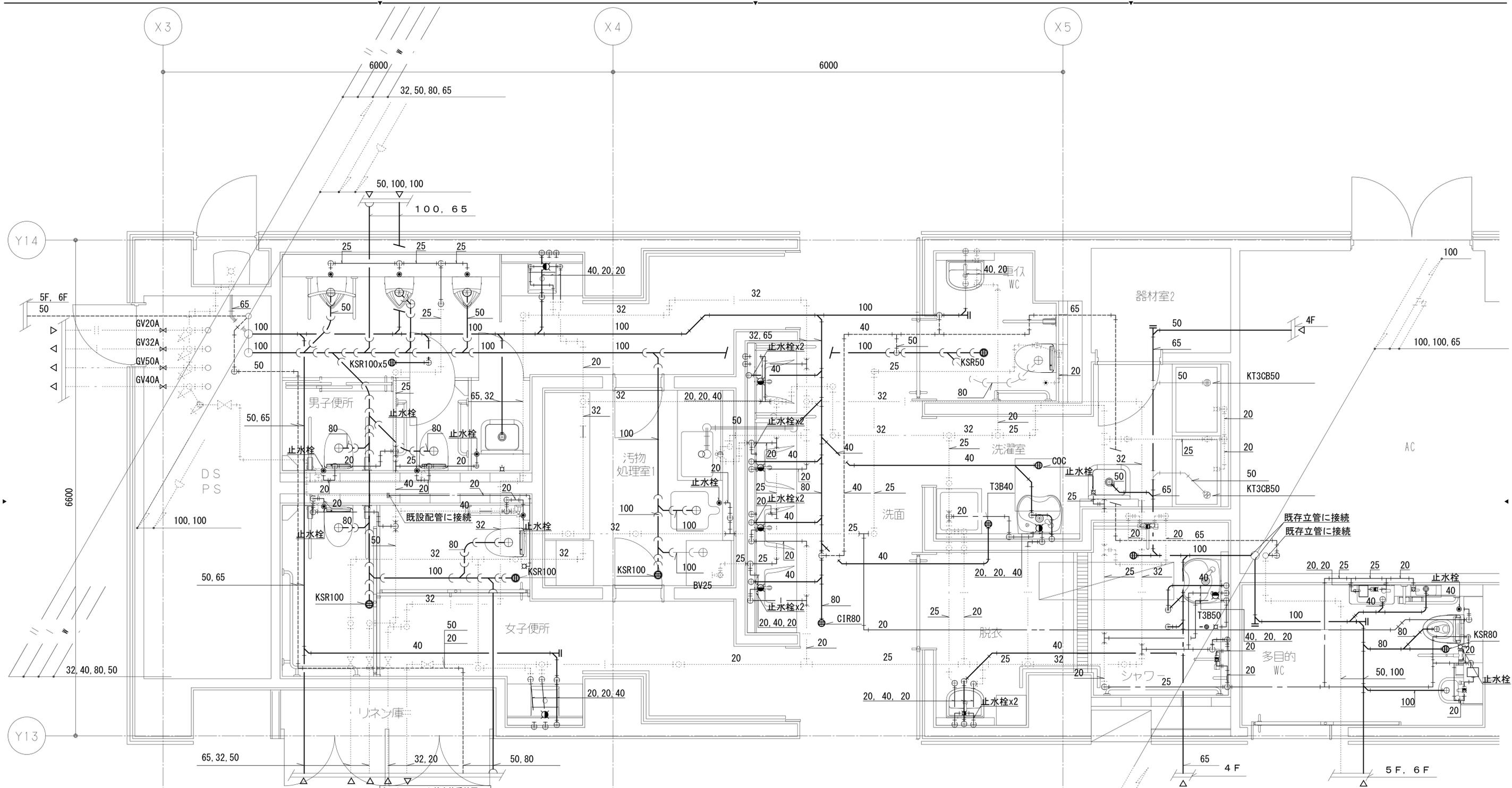
①5階工事で床上配管と器具のみ取付とし、4階天井裏配管の工事は4階工事中に行う。
 ②4階工事で配管接続後、5階の通水確認を行う。



- 凡例**
- 既設配管を示す。
 - 新設配管を示す。
 - +— 配管接続箇所を示す。

改修工事要領 (6階)

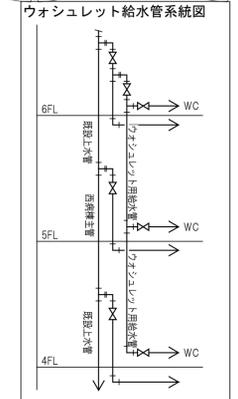
- ①6階工事で床上配管と器具のみ取付とし、5階天井裏配管の工事は4階工事中に行う。
- ②5階工事に配管接続後、6階の通水確認を行う。

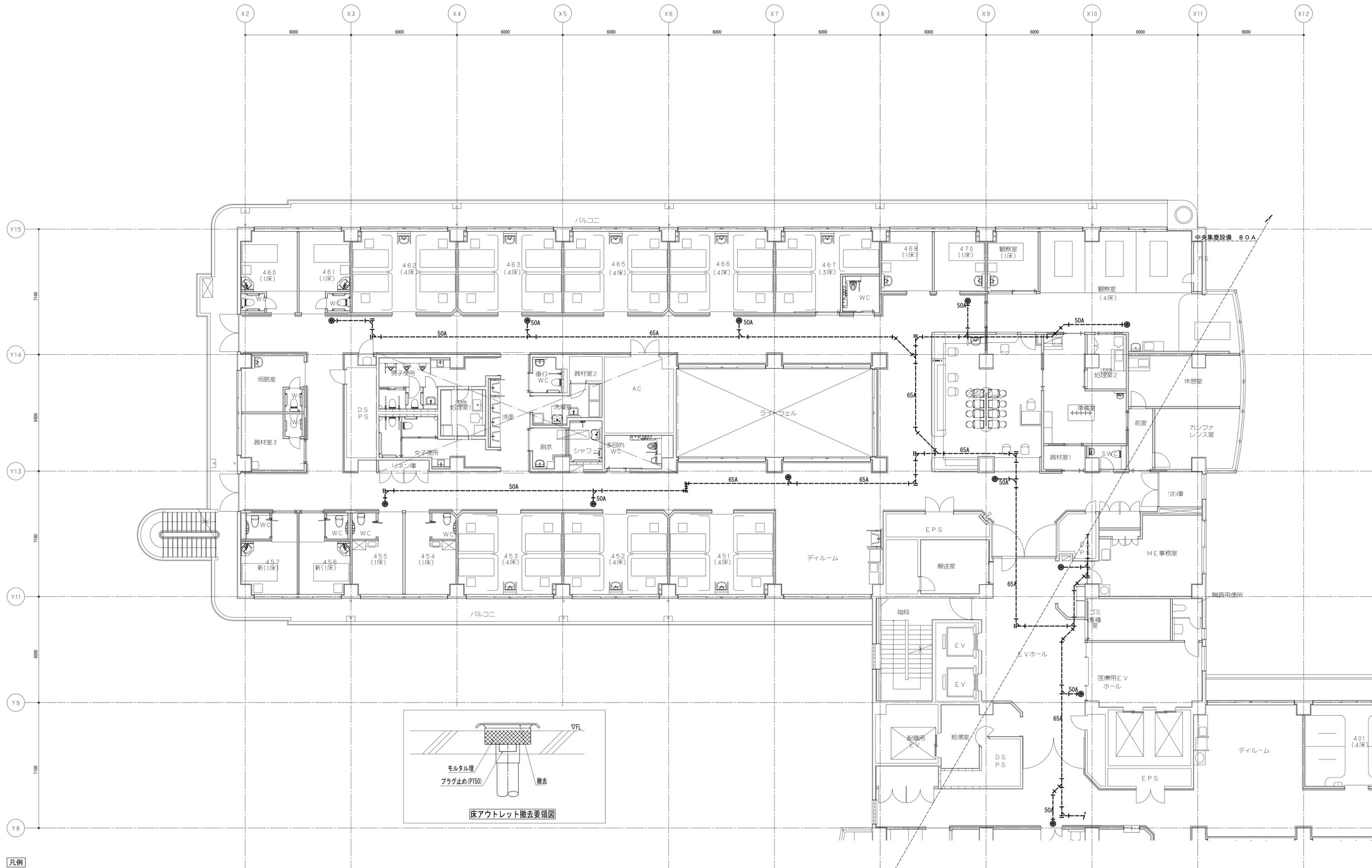


4～6階西棟便所平面詳細図 S : 1 / 25

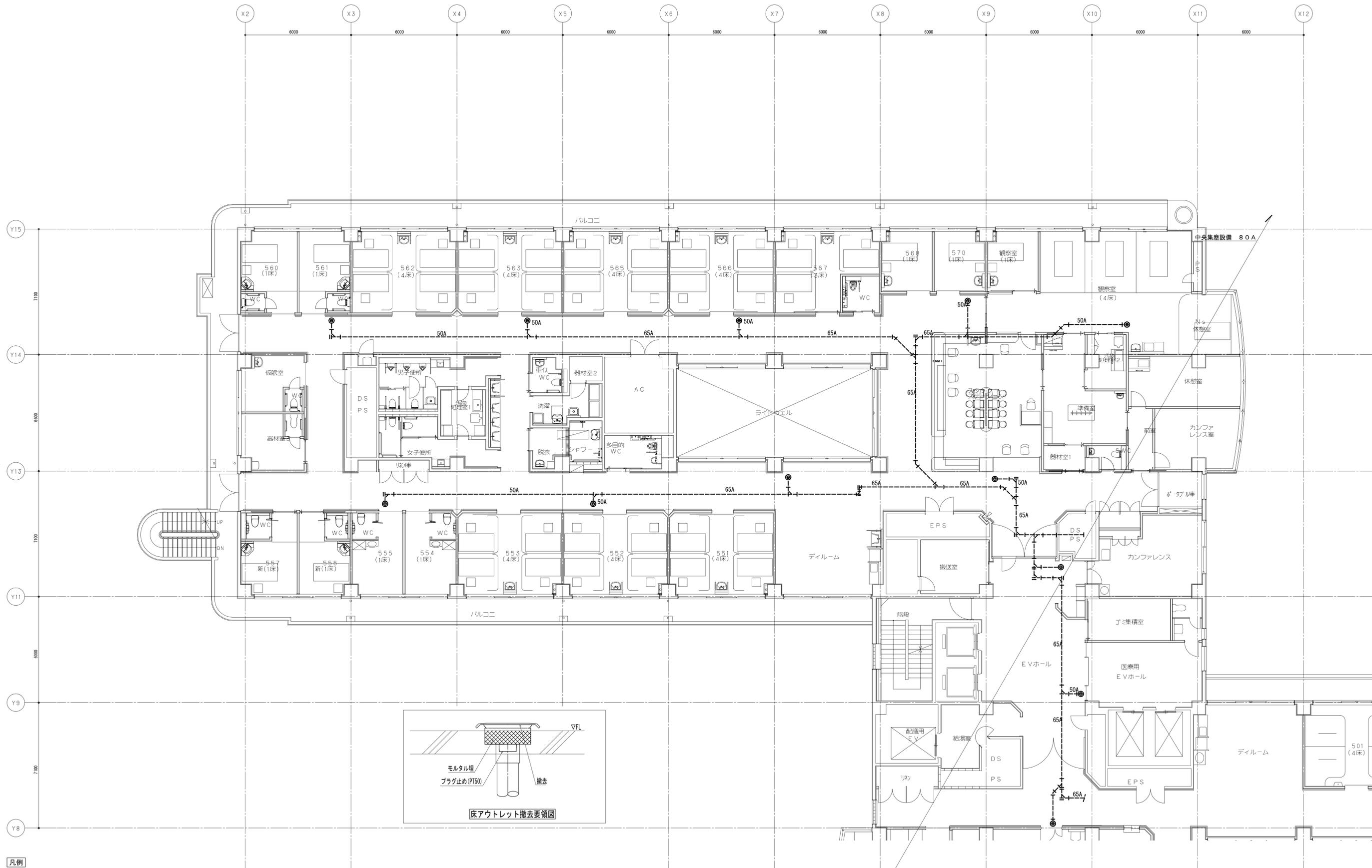
凡例
 - - - 既設配管を示す。
 ——— 新設配管を示す。
 ⊕ 配管接続箇所を示す。

注記) ・ウォシュレット用上水配管の新設は既設と同様ステンレス露出裸配管とする。

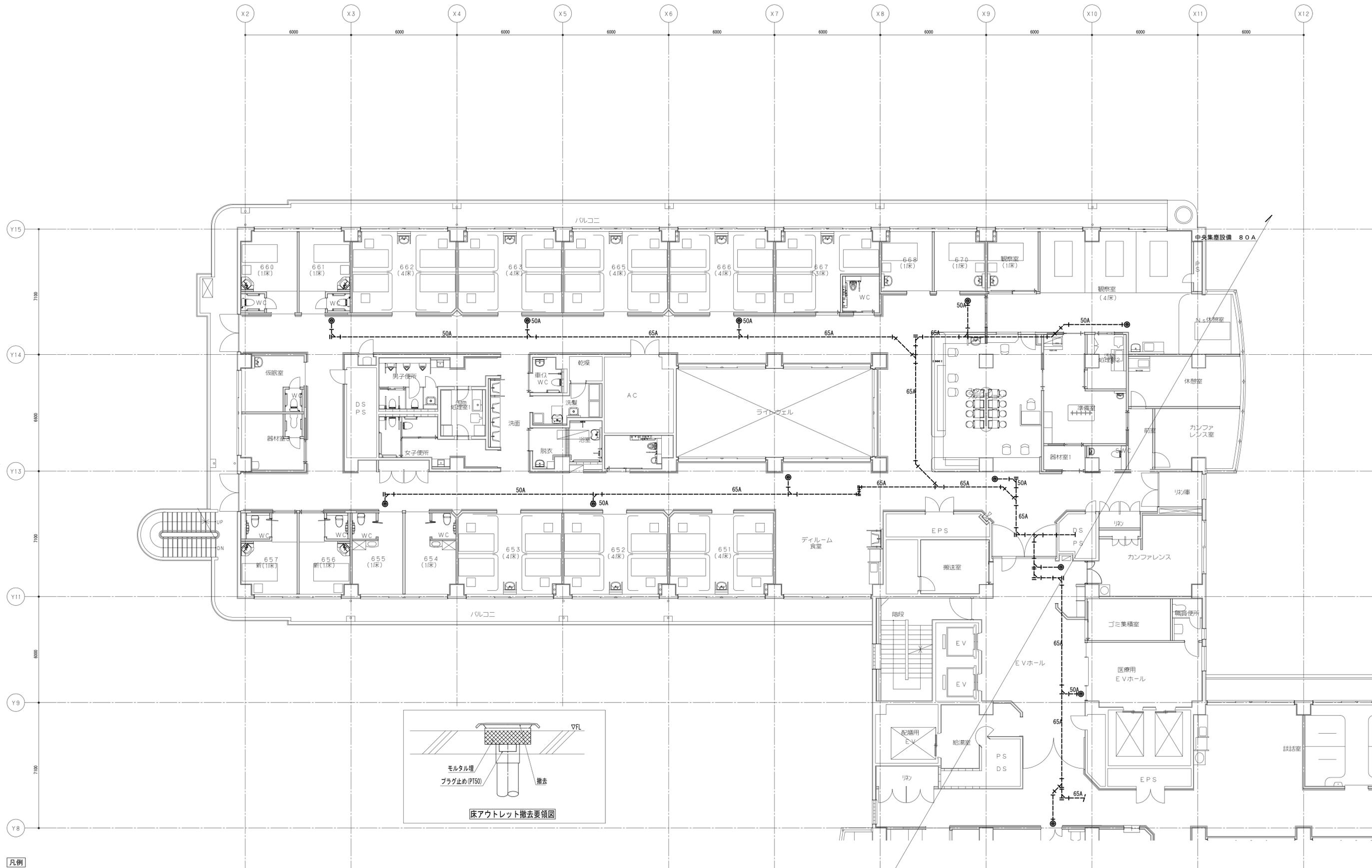




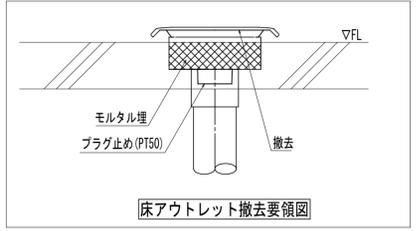
- 凡例**
- 既設配管を示す。
 - 新設配管を示す。
 - +—+— 配管切断箇所を示す。

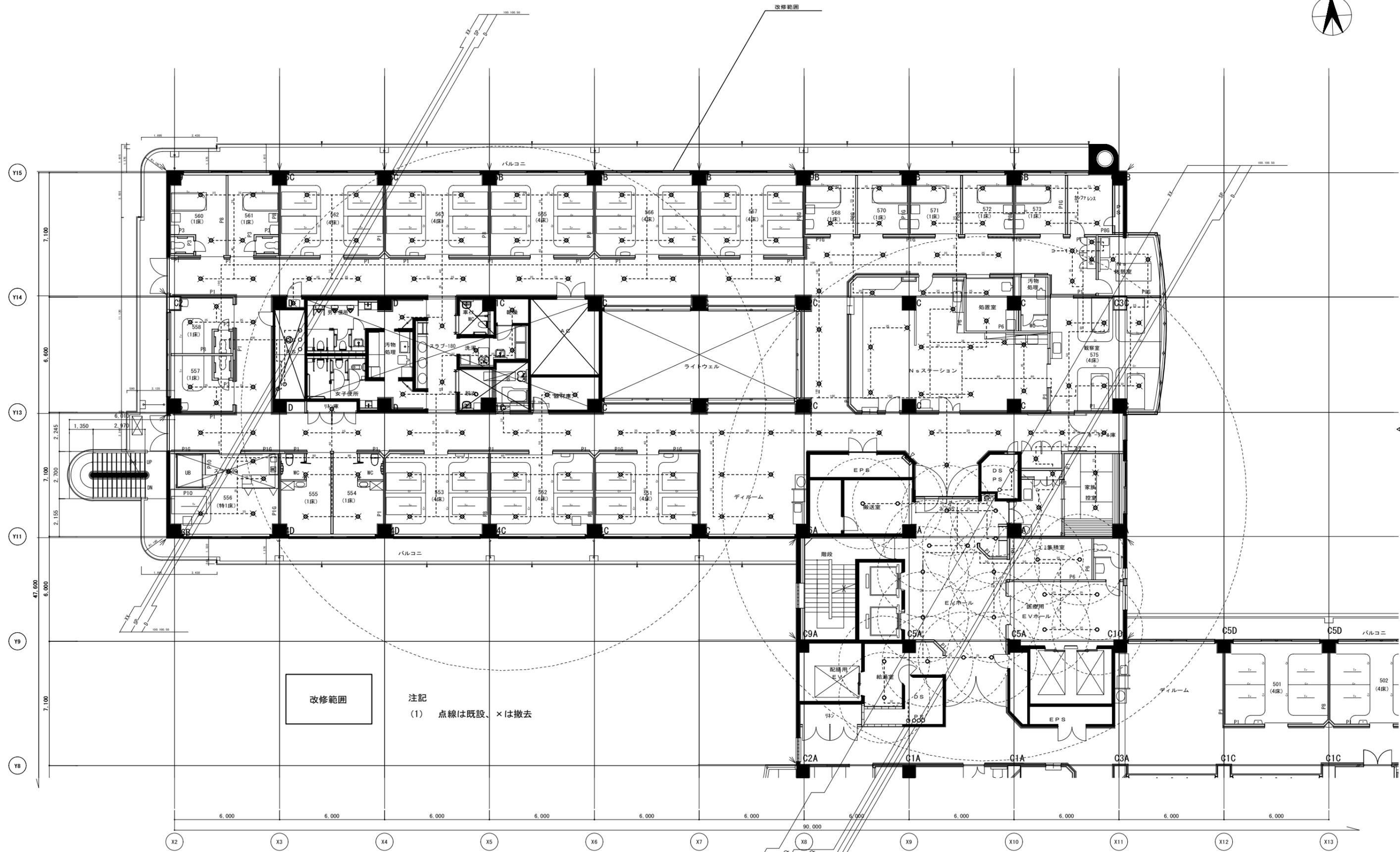


- 凡例**
- 既設配管を示す。
 - 新設配管を示す。
 - +—+— 配管切断箇所を示す。



- 凡例**
- 既設配管を示す。
 - 新設配管を示す。
 - |— 配管切断箇所を示す。





改修範囲

注記
(1) 点線は既設、×は撤去

医療ガス設備特記仕様書

1. 設備概要

1-1 酸素配管設備

酸素の供給は、同一フロア既設主管より分岐し、これより図示された各部屋の配管端末器へガスを供給する。供給源は既設を利用する。

1-2 治療用空気配管設備

空気の供給は、同一フロア既設主管より分岐し、これより図示された各部屋の配管端末器へガスを供給する。供給源は既設を利用する。

1-3 吸引配管設備

吸引の供給は、同一フロア既設主管より分岐し、これより図示された各部屋の配管端末器へ供給する。供給源は既設を利用する。

1-4 配管端末器（アウトレット）

配管端末器はガスの種別による着色が施されていて、保守点検用バルブ機能付きとする。また、異なる種類のガスの誤接続を防止するためのガス別特定の構造とする。配管端末器の種類は、壁取付型、メディカルコンソールがある。

2. 配管工事

2-1 配管材料

ガスの種類	配管	継手仕様	備考
酸素	りん脱酸銅継目無管 (JIS H 3300 C1220T Lタイプ)	左記銅管による形成品 JIS H 3401 銅及び銅合金の管継手	支持金具と銅管が直接触れないよう 銅管用金具を使用する。
治療用空気	ガスの使用区分に応じた着色熱収縮性チューブを 被覆したものとする。	JIS H 3250 銅及び銅合金棒C1100, C3602, C3712, C3771	
吸引			

2-2 配管の支持間隔

呼称管径 (mm)	<20	20~50
支持間隔 (m)	1.5 以内	2.0 以内

曲部及び分岐箇所は必要に応じて支持する。

2-3 配管の識別表示

隠蔽部は着色熱収縮性チューブ被覆銅管を使用する。各識別色は下記による。

配管色別	酸素	治療用空気	吸引
	緑	黄	黒

2-4 配管のろう付け

銅管のろう付け作業は、配管内部の酸化防止措置として、配管内に不活性ガス（窒素ガス）を送気しながら行うものとする。

2-5 配管方式

配管は、天井内隠蔽壁内埋込配管とする。

2-6 既設配管への接続

既設配管への接続工事については、事前に供給停止区域、閉止するバルブ、仮設供給方法について打ち合わせをすること。

3. 検査・試験

3-1 配管系統検査

配管工事完了後、各配管ごとに系統に誤りがないことを確認する。

3-2 配管気密試験

気密試験の圧力及び時間は下表による。但し既設管との接続部は、吸引を除く配管で標準送気圧力での検知液による発泡漏れ試験とし、吸引は吸込みがないことを触手で確認するか、又は漏煙試験とする。

配管名	配管気密試験			総合気密試験（排気を除く）		
	圧力 MPa	時間 h	使用ガス	圧力 MPa	時間 h	使用ガス
酸素	1	2	窒素又は 清浄な脱脂 空気	0.4	2	窒素又は 清浄な脱脂 空気又は 吸引圧
治療用空気	1	2		0.4	2	
吸引	0.5	2		-0.05R±0.1	2	

3-3 配管内清浄度検査

施工した配管内に微小物質の有無について検査する。但し、吸引配管は除く。

4. 工事区分

4-1 建築工事

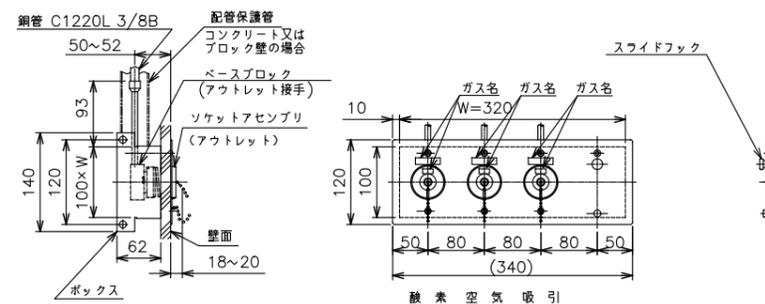
- ・点検口
- ・天井解体、復旧

4-2 電気工事

- ・コンソール撤去、再取付けに伴う電気配線工事

参考器具図

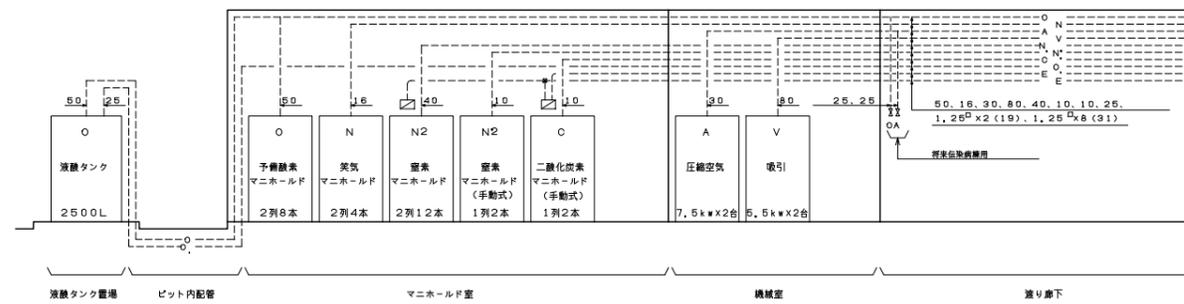
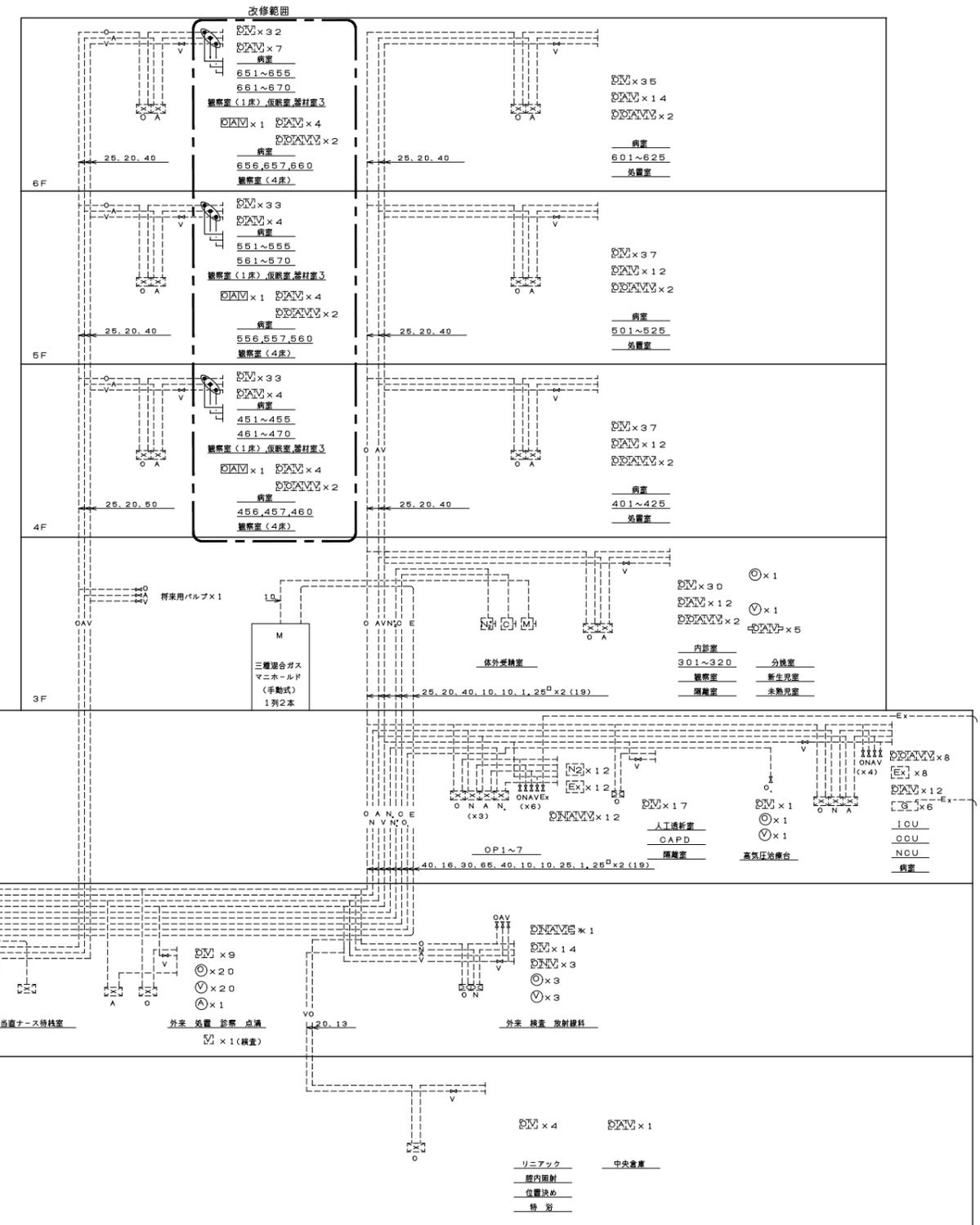
壁取付式配管端末器

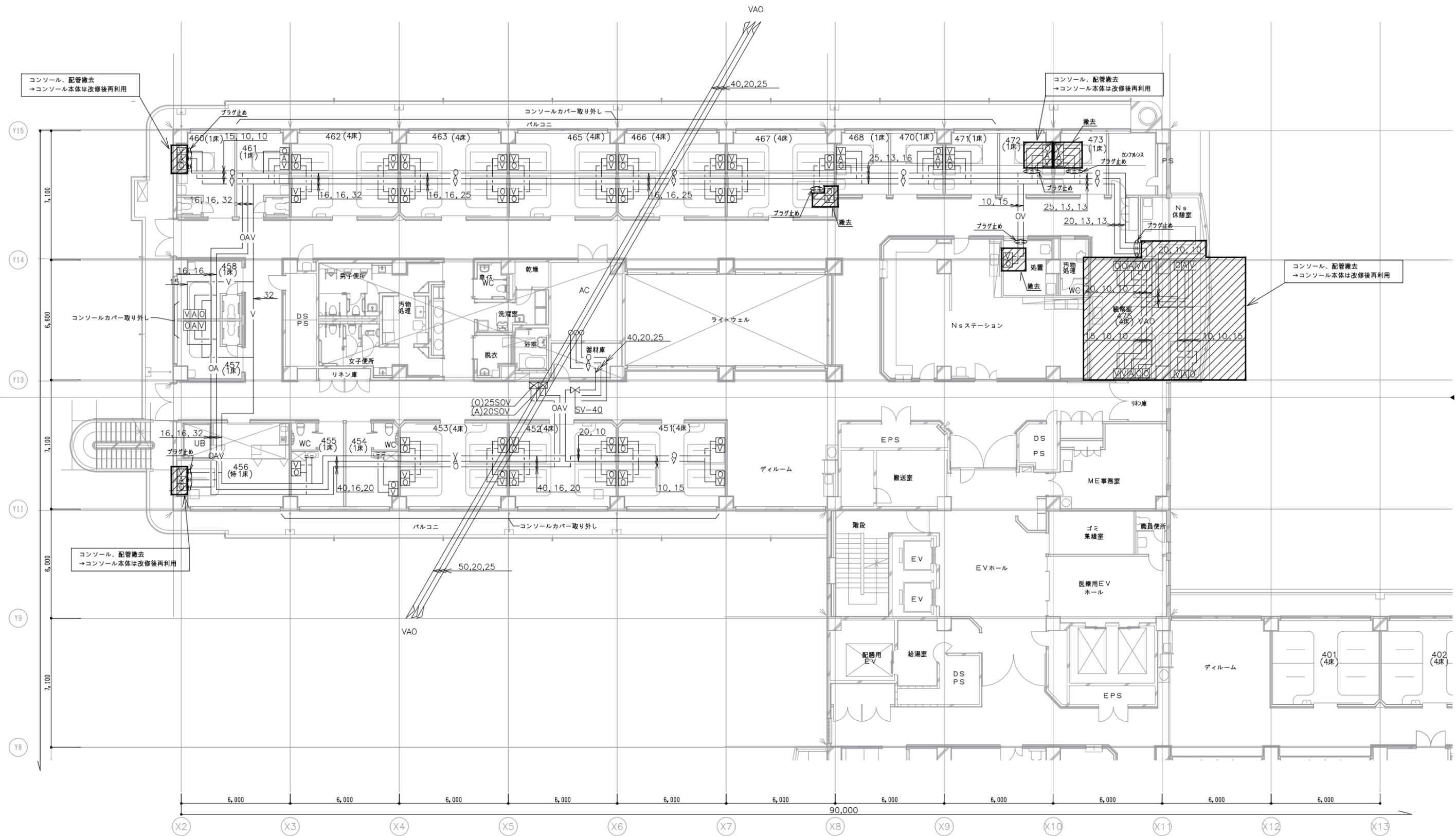


(西棟)

(東棟)

記号	名称	備考
□	2口型アクトレット	埋込型
□	3口型アクトレット	埋込型
□	5口型アクトレット	埋込型
◇	系統バルブ	
▽	点検口	別途工事 450x450
○	酸素配管	
△	空気配管	
▽	吸引配管	
---	既設	
●	既設配管に接続	





撤去範囲

